一般質問

3月定例会

内藤 眞一議員

Q 家畜糞尿のバイオガス利用を進めよ

飯南町堆肥センターは、循環型農業を推進する目的で平成17年に整備した。

しかし、施設の老朽化等により十分に機能していないため、悪臭等の苦情が町に寄せられている。

家畜糞尿にメタンガス発酵菌を使いガスを発生させ、発電するシステムを提案する。

国は、バイオマス燃料の利用拡大に向け、バイオマス産業都市に施設の整備支援を強化するとしている。

本町は、一昨年バイオマス産業都市に認定されているので、再生可能エネルギー活用手段として導入の考えはないか。

飯南町堆肥センター（塩谷）

A 大きな関心がある

町長 山碕 英樹

家畜糞尿のメタンガス化による活用には大きな関心がある。

岡山県のバイオガス発電研究施設を視察したが、収益を得るためには、原料の量的な確保が必要で、広域で取り組む必要がある。今後の参考としたい。

また、出雲エネルギーセンター廃止後の一般廃棄物処理については、今後10年間雲南エネルギーセンターを改修しながら使用する。経費上は、焼却処理が最も経済的であると報告を受けている。

今後のさらなる技術開発、民間企業の動き等も注視していく。

Q 野見宿禰（のみのすくね）活用を

住民が中心になり地域活性化のために取り組んでいる、相撲の元祖「野見宿禰伝説」を本町の観光拠点として活用できないか。

また、野見宿禰赤名相撲甚句会の活動は、有形無形の魅力を全国に発信している。

これら地域の活動に応える為にも、広島県側の玄関口として、観光整備を検討してはどうか。

スクモ塚古墳

A 貴重な観光資源

町長 山碕 英樹

上赤名のスクモ塚古墳は、地元で野見宿禰の墓という言い伝えがあり、教育委員会が説明看板等を設置している。

来年には、野見宿禰相撲甚句会の尽力により、本町で相撲甚句全国大会が開催される。これに合わせ、より一層その魅力発信に努め、観光誘客に向けたストーリーづくりを進めたい。

一般質問

3月定例会

門 眞一郎 議員

Q 儲かる水田農業の確立を

トランプ政権がTPP協定から離脱宣言し、個別協定によりさらに厳しい条件を突きつけられる恐れがある中、米の生産原価（人件費込み）が7000円前後という現状は極めて厳しい。政府は原価5000円を目標にしているようだ。今国会で主要農作物種子法の廃止が審議されているが、法の廃止で、自家採種による品質低下や遺伝子組み換え作物の増加が懸念される。

また、農協の広域化により大ブロックごとの単一管理しか出来ない状況になっている。

本町の稲作を将来にわたって守っていくために、独自の研究機関を持ち、種子生産から米の販売にいたるまでの儲かる水田農業を確立する必要がある。

土改剤散布作業

A 経営管理体制を強化する

町長 山碕 英樹

一町一農場の推進により、効率の良い生産性、資材の大口購入、農業機械利用の効率化、原価の削減・品質の均一化など、新たな視点を持った農業経営を規模拡大メリットで期待する。

本町の「土壌分析を重視して、継続的に米コンクールによる検証を行っている飯南町は、月刊誌「現代農業」で高く評価されている。また蓄積された技術もある。

積み上げたものを活かした経営には司令塔が必要となってくる。管理部門をさらに強化、研究していく。

Q 定住促進策の進化を

住みよいまちづくりは、そのまま住みたいまちづくりとなる。

U・Iターン者が地域に溶け込むまでの間、助言や相談にのっていく人材が不可欠だ。定住促進には補助金の多い少ないが重要ではなく、人の魅力が一番重要だと思う。

集落にはそれぞれ事情があり、U・Iターン者の受け入れにも温度差があるようだ。

体制が整っていると判断される集落から支援を行い、確実な定住を図っていく必要がある。

また、本町がどんな町かインターネットを通じて全国へ発信することが重要だ。

飯南高校報道部と雲南夢ネット飯南局に、広告代理店にはない発想と映像が話題となる定住促進PRビデオを作ってもらってはどうか。

A 調査と支援を行う

町長 山碕 英樹

新年度に意向調査を行い、集落の実態を明らかにする。その中で、定住の受け入れに対して集落の考え方も含めた調査内容となるように工夫したい。

既に体制が整っていると判断される集落に必要な支援を行いたいと思う。

情報発信用のPRビデオは、飯南高校生徒の視点で製作が叶うように努力したい。